

## 入門 被差別部落の歴史

寺木伸明 / 黒川みどり 共著 解放出版社

被差別部落史研究から、前近代(第1章～第7章)を寺木伸明さん、近現代(第8章～19章)を黒川みどりさんが執筆されています。

前近代編は、身分差別の起こりとその歴史的な時代の流れを知る事の重要さや、身分制の特徴や移り変わりや社会構造の変化などが書かれています。

豊臣時代から江戸時代前期までに皮多／長吏が被差別身分として位置づけられた点が、河原者・かわたにつながっているとしても中世において、程度の差はあれ、差別された職人身分であると推測されるところの河原者・かわたと質的に違うところであると考え、身分差別としての部落差別あるいはそうした差別を受ける地域(被差別部落)はこの時期に成立した。(P73) これらはまだ十分に検証されていない研究状況なので寺木さんの仮説とだと書かれていましたが、とても興味深いところです。

近現代では部落問題について差別を利用してきた国家権力と社会を問い、落問題が見えにくくなり、その存在が理解されにくくなった今日、歴史を学び部落問題との向き合い方を考えさせられる書です。

